SC-IB Newsletter

ボーイスカウト茨城県連盟情報
2019.07　No.20



http://www.scout-ib.net/

◘ 指導者バディルール導入

私たちが取り組んでいる「セーフ･フロム・ハーム」は、「ハームに適切に対応する」ということが大きな話題となっていますが、実は**「ハームを取り除いて安全で安心できるスカウト活動にするためのものである」**ということを常に忘れてはいけません。

それは、スカウトの「ちかい」と「おきて」が共通理解されているという前提の下で、「思いやりの心を育む教育」として、生命を尊重する心、仲間と話し合って協力する心、モラルや正義感、さらに自然や美しいものに感動する心など、子どもたちの「生きる力」を、より安全な環境の中でのスカウト活動によって養っていくことが主眼です。

少数の逸脱者のための責任追及や処罰事項を並べ、運動全体に適用するようなルールはこの運動にふさわしいものとはいえません。いくら厳格なルールを作っても、それを扱う「人間」次第であり、つまりは人格の問題になります。

加えて、セーフ･フロム･ハームにおいては、理論ではなく行動そのものが重要であり、ルール化しすぎず、明確に規定する部分と、緩やかに心構えとする部分に分け、常に研究を重ねて、見直しや周知を徹底していくことが必要と考えています。

また、ルールを理解し守れるように、意識の向上を図る取り組みにおいて、日常生活の全ての場が学ぶ場になり、また訓練の場になるよう考えています。

●バディルールの導入

ボーイスカウト日本連盟では、誰もが安全で安心できる活動をめざし、最低でも一年に一度、研修を受講してもらうようにしています。しかしながら、これだけでは青少年を十分に守ることができません。私たちの運動は、一人ひとりが「ちかい」を立て、「おきて」を実践することにより、この運動を素晴らしいものにしてきましたが、残念ながら、スカウトたちを傷つける可能性、あるいはその目的をもってこの運動に加わろうとする者を防ぐことはできません。この運動に関わる全ての人々が、責任ある市民であることを信じてやみませんが、社会では青少年を巻き込んだ事件が後を絶たないのも事実です。また、その事件は 青少年にとって安心できるはずの学校や家庭でも起きています。

そのため、日本連盟では、この現状を鑑み、セーフ・フロム・ハーム・ガイドラインに「指導者バディルール」を加えることとしました。

茨城県連盟では、４月 13 日に臨時団委員長研修を開催し説明しました。この「指導者バディルール」は、各団で対応ができ次第、直ちに導入してください。（遅くても今年度中に。）

指導者バディルール

- ○ スカウト活動、あるいは活動外におい て も指導者とスカウトと一対一で会うことはしません。
- ○ 集会時においては、集合時に二人以上の指導者が事前に集合場所にいるなど、一対一にならないようにします。
- ○ キャンプや舎営の折、スカウト就寝時の点検については、必ず、二人以上で行います。
- ○ オンライン通信（SNS）、ソーシャルメディアなどについては、他の指導者または保護者も登録されている中で利用します。
- ○ 車などでのスカウトの送迎についても、自分の子供以外のスカウトと一対一になることはしません

◆ 第 24 回世界スカウトジャンボリー（茨城）派遣隊 Facebook で、現地レポート続々発信中！！！！

アドレスはこちら　（県連 Facebook からもリンクしてます）
https://www.facebook.com/ 第 24 回世界スカウトジャンボリー日本派遣隊 2 隊 -750937155307991/?__tn__=HHH-R









◆ 9 月 16 日は「スカウトの日」です。

●社会と地球環境の未来のために、今ぼくらができること

ボーイスカウトでは、毎年、「スカウトの日」に、社会貢献活動を続けてきました。今年も全国各地で様々な活動が実施されます。

今年のテーマは、「地球大好き! I Love the Earth.」。

かけがえのない私たちの星、地球。その地球の中で、今、起こっている様々な問題について考えながら、それぞれの地域で、それぞれの活動を行なっていきます。

社会と地球環境の未来のために、今できることを。

皆さんも、是非、いっしょに考え、活動に参加してください。

■環境保全・環境美化活動

平成元年より開催している「スカウトの日」では環境保全·美化活動に力を入れてきました。

今年も全国各地で美化活動を行なうスカウトの姿を、見ていただけると思います。

また、世界的な環境キャンペーンである「Clean Up the World」にも本活動が登録。130 以上の国々、3500 万人以上のボランティアと同じ志を持った活動へと成長しました。

■その他の活動

環境保全·環境美化活動の他に、**災害復興支援の活動や、敬老の日に沿った活動、一般児童を招待して展開する活動、国際貢献活動等、各団、地区、県連盟の状況に応じた活動**を行なっていきます。





スカウト救急法講習会　2017.07.14

令和元年７月14日（日）土浦市青少年の家で「救急法講習」が開催され、スカウト24名と指導者４名、計28名が受講しました。

救急法はすべてのスカウト・指導者が身につけていなければならない必須のスキルとして、茨城県連盟では団・地区で消防署の開催する救命講習を受講することとしていますので、この救急法講習会は、その受講を前提として、そこでは扱わない野外活動に伴う熱中症や食中毒、動植物による被害等への補完対応をしています。

今回の講習では、三角巾の使い方やロープや毛布を用いた急造担架の作成、ペットボトルを用いた胸骨圧迫の練習方法の習得など、様々な実技も学んでいます。夏の隊キャンプ前の講習なので、参加したスカウトはみな真剣に取り組んでいました。





スカウト交流会　2017.06.30

県内のベンチャースカウトの交流とベンチャーラリーなどベンチャーの自発活動促進を目指したベンチャー交流会を，６月30日（日），土浦市青少年の家で開催し、県内各団から15名のベンチャースカウトが参加しました。

午前中にチームビルドを兼ねたパイオニアリング基礎講座で，信号塔の基礎となる三脚を作成しました。午後は各隊・地区のベンチャー活動をそれぞれ紹介した後，ベンチャーラリーに向けた話し合いを実施しました。4つの企画案を各地区に持ち帰り，10月の実行委員会までに，企画の実現性や具体的計画などを話し合ってくることになりました。

<スカウトの感想より>

- ベンチャー交流会では，やりたいことについてのアイディアがたくさん出て，ボーイ隊とはちがうんだなあということを改めて感じた。ベンチャー活動を広めるために，自分たちができることを考えるのも，自分たちのためだけでなく，県全体にかかわることなので，とても有意義な活動だと思う。
- 初めてのベンチャー交流会で，緊張もしましたが，みんないい人ばかりで楽しく活動することができました。パイオニアリングで学べたことはチームワークの大切さです。一人ひとりが自分のやれることを見いだしながら仲間と協力する，ロープワークを完璧についておくなど，様々なことを教えてもらうことができました。

















標準団を目指すということ その15
見えてきた問題点

先日、とある研修で、参加していた指導者がこんな話をしていました。

「私たちはボランティアだから、時間のある時にお手伝いするものでしょ。今日は、隊長がどうしてもというから参加したけれど、今までだって出なかったし、必要は感じなかったもの・・・」・・・と。

このような指導者は少数と思われますが、この運動への（指導者としての）ボランティアとしての関わり方を、今回は皆さんと考えていきたいと思います。

これから述べることは、県連ホームページのｒスカウティングFAQの「スカウティング全般」に書かれているものです。

◆ ◆ ◆

Q６：ボランティアとスカウティングについて

Q：私たちはボランティアとしてスカウト活動に関わっていますが、自分のあいている時間を活用しての本来のボランティアの考えで関わると、隊に迷惑がかかると言われました。スカウティングはボランティアではないのでしょうか？　どのような意識で関わっていけばいいのでしょうか？（K.M ACM）

A：回答する前に「ボランティア」についての共通理解をしたいと思います。

「ボランティア」とは、一言で言えば、社会や地球のために役にたつことをする、報酬を目的としない行為のことをいいます。ボランティアという言葉は「志願者」あるいは、「自分から申し出る」という意味の英語（volunteer）です。私たちが住んでいる地域社会には、学校や職場の友人、同じ町に住んでいる人など、たくさんの人たちがいます。そのなかには、いろいろな事情でやりたいことができずに困っている人がいます。みんなが良い暮らしをしていくためには、できる範囲で少しずつ助け合うことが必要です。人間だけでなく、たいせつな地球の自然を守るためにも助け合いももちろん必要ですね。これがボランティアです。

私たちボーイスカウトは、青少年の健全な育成をいう面から、社会に対してスカウティングを展開しています。これは世界中のどの国でもおなじ理念・目的をもって、平和で豊かでともに手を取って生きていける社会にするために、子供たちが自分自身を磨いて自立し、社会に出て役立つようその成長を支援してこうという運動です。この運動にかかわる成人は、ボランティアです。

ボランティア活動に報酬はありませんから、我々ボーイスカウトの指導者にも報酬はありません。それは、ボランティアとは「だれかのためになにかをしてあげたい」という純粋な気持ちを大切にした活動だからです。ですが、いい加減な気持ちで取り組んではいけません。だれかに「何かをしてあげる」ということは責任をもってきちんと取り組んでいくという意志（決意）と姿勢が必要です。「してあげたい」という気持ちと「責任」、その両面がなくてはなりません。

自分以外の人のために、お金をもらわないでなにかをすることは簡単なことではありません。でも、そこにはかならずたくさんの出会いがあります。そして、たくさんの友だち、仲間ができます。さらに、そのときにあなたにかえってくる「ありがとう」の一言は、あなたを、きっと豊かな気分にしてくれます。ボランティア活動はあなたの「心」を育てる栄養になるはずです。

さて、これがボランティアの基本です。「本来のボランティアの考え」と合ってましたか?

スカウト運動は、特に「教育（Education）」という大きな役割を担っています。子供たちへの教育は短期間ではなく、幼年期から青年期にかけての長い時間をかけて行われます。ボーイスカウトも同じです。スカウトたちに良い「性格・資質」が定着するには長い時間がかかるわけですから、それに関わる指導者は、ある一定の期間、継続して関わっていく責任があるのです。ですから「あいている時間」といった関わりでは、スカウトたちへの教育の責任を果たせない・・・という意味から「隊に迷惑がかかる」と言われたのだと思われます。

また、ボランティアでもうひとつ大切なことがあります。それは、どこでボランティアをするかということです。自分自身が発案して自分自身で実行するのであればこれから述べることは必要ないかもしれません。しかし、多くの場合、あるグループ、チーム、団体（これらを「組織」といいます）に入ってボランティア活動をしていくことになります。それらの組織には、その組織の意図があります。それを無視することはできません。その組織の考え・目的・方法など（組織理念）を理解しそれを受け入れることができたならば、初めてその組織でボランティア活動ができます。というのは、それらの組織はその理念を社会的に認められ、信用を得ているからこそ存在しているのですから。

そこで勝手な行動を起こすこ（自分勝手に解釈をして行動すること。組織のルールを守らないこと。ボーイスカウトで言えば、この運動の理念



に反する言動等）とは、ボランティアを否定することになり、「だれかのためになにかをしてあげたい」という純粋な心を持つ多くの人たちを、いやボランティアそのものを窮地に追いやることになります。もし、自分の意図しているものと方向が違っていたら、その組織ではなく、別の組織を探すか、自分自身でやってくこと・・・がボランティア活動の大原則となります。「だれかのためになにかをしてあげたい」という純粋な心は、自分を押しつけることではないのです。どうか、そこをご理解いただきたいと思います。

スカウティングは教育活動です。ですから、それに関わる指導者はボランティアとは言えども、自分を磨き、高めることが求められます。学校の先生が授業の内容を十分に理解していなかったら教えられません。しかも先生たちは生徒が理解しやすいように、常に授業の方法を研究してトライ&エラーを繰り返し、自分の教師としての能力を高めています。それは私たち指導者も同じです。ボランティアですがそれを求められます。唯一違うのが、「教える」のではなくて、指導者自身がそれを楽しく実践している姿をスカウトに見せて気づかせ、共感させて、彼らの心を動かし実践へと導いていく・・・ということです。だからスカウティングは楽しいのです。大人にとっても魅力があるのですね。

【2007.05.18 担当コミ】

◆ ◆ ◆

いかかでしょうか？　これがボーイスカウトに求められているボランティアの姿です。皆さんの考えと同じだったでしょうか？

さて、ボーイスカウトの教育は、スカウトの「ちかい」と「おきて」が共通理解されているという前提の下で、「思いやりの心を育む教育」として、生命を尊重する心、仲間と話し合って協力する心、モラルや正義感、さらに自然や美しいものに感動する心など、子どもたちの「生きる力」を養っていくものです。しかも、それはスカウト精神を基盤とする活動を通して、自らが培っていくことで、自分自身にしっかりと定着していくのです。

では、スカウト達は誰を模範にするのでしょうか。BS部門であれば、班長・次長です。その班

長･次長は、上級班長を模範とし、上級班長は副長を、副長は隊長を模範とします。CS や BVS は隊長でしょう。VS や RS は、自分がこの人だと思った指導者となるでしょう（他の団の方も方もその対象となります）。つまり、スカウトの模範のモデルは結果として「隊長」なんですね。隊長がスカウティングをどう考えるか、どう「ちかい」や「おきて」を体現するかによって、その隊のスカウトの意識がある方向に培われていってしまうわけです。この運動が求めている方向であればいいのですが、そうでない場合、困ったことになってしまいます。もし、そのように評価されてしまった場合は、この運動が求めているものを再度確認して、それに向かい直すか、それとも前述のように「もし、自分の意図しているものと方向が違っていたら、その組織ではなく、別の組織を探す」、つまり、ボーイスカウト運動から去って行くしかありません。

この運動が求めているものを理解・把握する場が指導者訓練、中でも日本連盟が主催している定型訓練の「ボーイスカウト講習会」「ウッドバッジ研修所」「ウッドバッジ実修所」になります。ウッドバッジ研修所を修了すると、隊長に就任できる資格が得られますから、多くの方は、それで良しとしてしまっています。しかし、指導者に求めているこの運動の「深さ」はウッドバッジ実修所を修了して初めて身に付けられるものでしょう。

7 月 20 日に行われた「団委員研修」の中で、次のようなボーイスカウトとして問題だとされる、地域の方からの苦情があったとの報告がありました。

▶ビーバー隊の活動からの帰りと思われるが、コンビニの駐車場で、保護者は数人が世間話、スカウトは店内や駐車場を走りまわっている。自分の子供も入隊を考えていたが・・・・

▶ファミレスでも同様の事例あり。

▶ダラダラ感がたまらない。体験入隊を申し出て、集合場所へ到着、数名の保護者とスカウトがいた。徐々に送迎の車等が到着、開会セレモニーまでの間、保護者や指導者は世間話？打合せ？。スカウトは走りまわったり、ふざけたり。　送迎（大人）の事情かもしれないが「遅刻」はあたりまえ？　こんなことをするために入隊はさせられない。



▶歩道をわがもの顔でサイクリング。危険‼歩行者が避けてる。横並び･運転中の会話など自転車走行可能の歩道だからといっても限度がある。指導者らしき大人も同様。

▶カブ隊に電車で遭遇、走る、大声、ふざけるなど。ホームでも。　指導者、DL は打合せ？世間話？　いずれにしても知らんぷり。

▶自分の子供も入隊を考えていたが、昔のような「組」が編成されておらず編成されていても「1組」だけ。入隊を躊躇している。スカウト 1 人とか 2 人で活動することもあるという。

――――最後の事例以外は、「隊長」がどれだけ「ちかい」や「おきて」そして「スカウト精神」を獲得しているか・・・・、いや、社会規範、モラルを持ち合わせているかです。持ち合わせているだけではだめです。それを隊の中、団の中でいかに浸透･周知させ、スカウト達が「それをしないぞ！」と心に刻ませているか、なのです。その取り組みをしているかが隊長に問われています。多くの隊長は、しっかり取り組んでいることでしょう。一部の方が

話は戻りますが、では「隊長」がモデルとしているのは誰なのでしょうか。それは、トレーナー（トレーニングチーム員）が多いとのことです。コミッショナーでも団委員長でもないのです。トレーナーは、指導者研修という場で長時間に亘って指導者と接します。そのためなのでしょう。しかし、そこで参加した指導者たちによって見抜かれていくのも事実です。1mm 単位で。

どれだけトレーナーが正論を述べたとしても、その表情、視線、話し方、態度だけでなく、担当セッション以外の場での言動、つまり存在のすべてが評価の対象となります。伝えることよりも、参加者をどれだけ導いてくれたかを、評価しているのです。言い換えれば「琴線に触れる」ということでしょうか。そんなトレーナーが模範（モデル）なのです。（どんな素晴らしい講義をするトレーナーよりも、セミナーが終わった後で、人知れず会場を掃除しているトレーナーの方が「思いやりの心を育む教育」を伝えるに相応しいように思われます・・・。）

では、コミッショナーはモデルにはならないの？いやいやそんなことはありません。トレーナーと指導者の接し方を「線」だとすると、多くの場合コミッショナーは「点」なのです。それだけのことです。まぁ、茨城のコミッショナーはほとんどトレーナー（トレーニングチーム員）ですから。

閑話休題。もとにもどります。

私たちコミッショナーやトレーナーは、これまでスカウト減少は、魅力あるプログラムが展開できていないからと考え、そこに優先的に力を注いできました。もちろん、指導者の（ボーイスカウト的）資質にも目を向けてはいましたが・・・。どうやらそれは間違いだったようです。その両方に力を注がなければならなかったのでした。



4 月末に高萩スカウトフィールドで行われた団運営研修所では、スカウト募集にあたっての団の問題点を研究しました。その時にあったのが次のことです。

●体験入隊は、要注意。

→スカウト、指導者の態度、姿勢、対応が見られている。（前述にも）

→参加者の保護者がボーイスカウトに何を求めているのかをリサーチ。

→イベントも同じ。

→保護者が見ていること。　規律･秩序、服装、指導者間のおしゃべり、だらしなさ等

つまり、子ども好きで、リーダーシップのある、信頼に足り、安全で安心できる指導者であるかどうか。

◆保護者が見ていることへの対応

- 全員がまとまって、同じ制服をビシッと着こなすから、団体としての見た目が良くなる。
- ボタンが外れていないか、記章が正しく付いているか、裾がはみ出していないか、ネッカチーフはきちんと巻かれているか、チーフリングの位置は・・・常に気を気張ることが大切。
- 更に、指導者では、ウエストバッグなど余計なモノを付けていないか、ジャラジャラとくびから何かを下げていないか、半袖制服を着ているときに、下に長袖シャツを出していないか、

などにも気を配る。

◆これ以外に

- きちんと並ぶ（並ばせる）
- 元気に声を出す（返事する）
- 楽しく一生懸命にやる
- じぶんのことを自分でやる

・・・こんなところを、ボーイスカウトに子どもを入れようとしている保護者は見ています。――



◘ デンリーダー研究会・デンリーダー講習会

「スカウトを増やしたいなら、デンリーダーを育てろ！」

これは、ボーイスカウト界で昔から言い伝えられている言葉です。その理由は、カブ隊ほど、指導者やデンリーダーが深くスカウトに関わる隊はない・・・ということからです。

言い換えれば、楽しく魅力ある活動プログラムももちろんですが、組のおかあさん役である「デンリーダー」がその役目をしっかりと担っていることが、保護者から評価されて、「子どもを預けよう」という気持ちになるのでしょう。その一方で、デンリーダーを指導支援する隊長が、カブ隊の運営方法やプログラム展開におけるデンリーダーの役割、そして家庭とのコミュニケーションにおけるデンリーダーの役割や位置づけをよく理解していないならば、組や隊の運営が滞るだけでなく、それは、団にまで波及していきます。そういう意味では、カブ隊におけるデンリーダーは、ボーイスカウト運動の「核」とも言えるのです。

令和元年６月16日に、土浦青少年の家でデンリーダーに関する２つのセミナーを同時並行で行なわれました。

●（参加者の声　「DL 研究会」）

「組長を中心にスカウトが自主的に考え、失敗して学び、別の方法を考える」。そのような組集会を実現するために、隊指導者がスカウトをどのように支援すればよいのかという基本を、今回の研究会を通じて再確認させていただくことができ、非常に有意義であった。

我々の隊では組集会と隊集会の日程を明確に分けておらず、同日内に組集会（のようなもの）を開催してきた。また、プログラム委員や男性リーダーが組集会の進行のかなりの部分を手伝ってきた。したがって、研究会で体験したデンリーダーによる「スカウトに考えさせ、失敗させながら体験させる」という形での目指すべき運営はできていなかった。

後日、今回体験したプログラムを参考に、プログラム委員と組集会のやり方を練り直した。内容は、環境改善を進めている活動場所を飾る壁画アートの作成で、テーマは「僕たち私たちの秘密基地」。組集会でモモキャッチゲームをした後に、絵の具の種類（水彩とペンキの違い）を話し合ったり、絵の具を混ぜて見本に近い色を作り組対抗の「塗り絵ゲーム」をしたり、次回の隊集会に繋がるプログラムとなるように工夫した。

プログラムの準備は大変ではあったものの、スカウトの好奇心をくすぐるためにどうすればよいのか知恵を絞るのは楽しく、結果的にスカウトの笑顔を多数みられたので、労は惜しむべきではないと痛感した次第である。

デンリーダーにとっては、初めての試みであり、かなり荷の重い会だったようである。しかし、表彰の際にいつも以上に組の受賞に喜ぶデンリーダーを見られたので一定の成果が得られたのではないかと考える。

今後も我々にあったやり方を模索しながら、充実した隊集会に繋げていきたい。

このような機会を与えて下さった研修スタッフの皆様ありがとうございました。（K）

●（参加者の声　「DL 講習会」）

▶集合

前日降り続いた雨、未明の激しい雷雨から一転、強い日差しが眩しい朝、続々とリーダーたちが会場に集まり始める。自然と団毎の集まりができ、通り過ぎる講師と挨拶を交わしたり、誰それが晴れ男だからと盛り上がる。リーダーになって2ヶ月半、知り合いと言えば自分の隊の人達位。50人位の人達の中で、これから始まる講習会の期待と不安が混じるなか、受付を済ませる。

▶開会、組分け、基本動作

まずは広場で開会のセレモニー。普段は子供たちを指導している大人たちが次々と講師から指摘をされながら、なんとか形を整えながらも厳かに進む。保護者として参加する講習会ではなく、全員が子供たちの指導者として参加する講習会だから、講師の厳しさが違うのだろう。組分け、簡単な自己紹介の後、座学、敬礼、回れ右などの基本動作。

▶組集会、冒険出発

昼食は組で食べながら情報交換。子供とどう接するか、何故リーダーをやろうと思ったのかなど話題は沢山。みんな他の団ではどんな様子か興味深々で会話が続く。そんな昼食が終わって、組長、次長、くま、しか、うさぎを割り当てて、講師が DL となって組集会が始まる。仲良しの輪、ミニゲームなどを通じて徐々にメンバーのテンションが上がってくる。DL からの入れ知恵？が終われば外へ。謎の教授に一同吹き出しながらも、整列し、報告を済ませたら追跡ゲーム開始。

（次頁・下段につづく）

スカウトソング研修会

「もっとスカウトソングを知りたい!」
「活動の中で、スカウトソングを歌いたい!」
「スカウトソングを広めたい!」
「隊長としてスカウトソング章をどうやって考査・認定したらいいの?」
など、スカウトソングの導入方法やスカウトソング章の支援方法や、皆様の疑問等を解消し、ソングを楽しく学びぶセミナー「スカウトソング研修会」が、令和元年７月７日の七夕に、ひたちなか市の「ふぁみりこらぼ」で開催されました。



●（参加者の声）

ソング研修とは、どんなことをするのだろう? 初めての経験に、好奇心をもって参加しました。

いつも何気なく歌っていた連盟歌、光の路の正しい歌い方を改めて意識することから始まり、ビーバーソング、カブソング、ボーイソングと、テンポよく皆で歌い続け、歌い方や振り付け、歌の意味を教わりました。次々と歌い続けるうちに、とても気持ち良く、愉快な気分となり、このような思いをスカウトにも感じてほしいと思うようになりました。

後半はキャンプファイアについての講義で、実際に炎の置物が用意され、キャンプファイアの流れを、歌って踊って体験しました。キャンプファイアにおける5つの S。ソング、スタンツ、ストーリー、ショーマンシップ、スマートネス。これらを意識して体験したキャンプファイアは、とても面白く、また、その奥深さに非常に興味をひかれました。火を囲み、歌い、踊り、静かに自分と向う。スカウトにとって、ひいては人間にとって、大切な時間であることも実感。講師の演出の巧みさには舌を巻く思いでしたが、自分もこんな風にできるようになりたいと思いました。

後日、所属する隊でキャンプがありましたが、今までとは違った思いで歌を歌い、キャンプファイアを経験することができました。今後はスカウトにも歌う楽しさ、キャンプファイアの面白さ、奥深さを伝えていけるよう、自分自身も楽しみながら、活動していきたいと思います。（H）

●（参加者の声）

私は昨年からカブ隊のソングリーダーになりましたが、最初はみんなの前で歌うことがとても恥ずかしいという気持ちでした。私たちの隊では毎月活動に合った「月の歌 」を選びスカウトたちに教えています。スカウトソングの歌集を見ながら、何を選んでいいのか? この歌は何だろう? と難しく考えていました。これまではソングリーダーとしての務めをうまく果たせずにいましたが、そんな時にソング研修会が行われると知り、ぜひ参加してみたいと思いました。

研修会では連盟歌からビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊の歌を詳しく教えてもらいました。

特に印象的だったのはキャンプファイアのスタンツです。スタンツを楽しむためにはスカウトソングがとても重要でした。エールマスターの進行でみんなが一体になり、歌って踊る。大人がこんなに楽しいと思えるなら子供たちはもっと楽しい。今まではただ何となく歌っていただけでしたが、研修会では子供のように笑い楽しんでいる自分がいました。

どんな歌にも意味があり、それを聴いて歌ったときに、こんなにいいスカウトソングがあったのだと感動しました。上手く歌えなくても楽しく歌うことが大切。それを今まで歌わずにいたことが勿体ない 。ぜひスカウトたちと一緒に歌いたいと思いました。また、他団の指導者達 と一緒に歌うことで生まれた一体感に感動しました。それを自分の隊に持って帰り 、スカウトやリーダーたちにも伝えたいと思います 。

もうすぐ夏のキャンプです。暇さえあればソングブックを手に取っています 。何にしようかな? とワクワクしながらキャンプソングを選んでいます。それまでの私ではなかったことです 。

今回の研修では、とても貴重な経験をさせていただきました。１日ではまだまだ足りないくらい覚えたい歌がたくさんあります。ソング研修会を定期的に開催していただき、スカウトソングをさらに広め、たくさんの団からボーイスカウトの歌が響き渡る、そんな光景を見ることができたらいいと思います。（T）

▶追跡、大人気ない戦い、閉会

組の皆で暗号を解いたり、他の組にバレないように次のポイントに進んだり。徐々に競争に勝とうと熱が入ってくる。自然と役割分担して、一丸となって前に進む。最後一列に並んで皆で競って遊んでいたのは、まさに子供たちだったと思う。楽しんだ時間は終わり、また厳しい指摘の飛ぶ閉会セレモニー。開会と違うのは、自然と笑いが飛んでいたこと。その後簡単な講義、後片付けをしておしまい。

▶講習会に参加して

最初はなにもわからずエントリー。開会セレモニーで「ああ、今日は厳しい一日が始まるなぁ」と思ったものの、普段なかなか正しく学ぶ機会の少ない事に触れられて多いに助かりました。そのままの流れかと思いきや、いつの間にかカブのロールプレイ。最初は気恥ずかしさが残っていたものの、気がつけば子供のように楽しんで、最後は全力で遊んで笑っていました。「ああ、こうして子供たちに教えるのか」と、多くを学ぶ機会だったと思います。保護者から DL になって日が浅い人は一度、体験することをお勧めします。開会で少し焦るかも知れませんが大丈夫です。そこで直して貰ったら、子供たちに自信を持って指導できるようになります。自信がつけば、日々の活動がもっと楽しくなります。

最後となりますが、お忙しい中楽しいプログラムを準備、開催下さった講師の方々に御礼申し上げます。また次回、ワクワクするようなミッションを期待しております。ありがとうございました。（S）



◆夏季の種活動に向けて

1. 夏季特有の安全対策

本年度スカウティング誌5月号に、「平成 29 年度のそなえよつねに共済事故データ分析」が掲載されています。これによりますと、事故発生件数は 344 件で、例年と同様に8月の事故発生件数がもっとも高く、全事故件数の 22.1%を占めており、ナタによる切り傷、やけどが多く、マダニによる被害も発生しました。

特に、下記についての安全対策を図り、安全な活動を行ってください。

①熱中症対策、　②水辺活動の安全対策、
③登山・ハイキングでの安全対策、
④危険な動植物への対応、
⑤食中毒対策、　⑥天候チェック

（1）通常時の安全対策に加え、夏季の気象条件や環境の変化など季節に応じた対策が必要です。

（2）活動計画の折には、事前準備を十分行い、実施中は状況に応じた具体的な指示・指導を徹底しながら、安全確保に努め、万が一事故が発生した際は迅速で的確な対応がとれるよう取り組みます。

そして、スカウト・指導者一人ひとりが安全への意識を高め「自分のことは自分で責任をもつ」心構えの醸成に努めます。

（3）公共交通機関での移動や公共施設利用時は、他の利用者の見本となるよう「ちかい」と「おきて」の実践に努めて行動します。また、キャンプ地が民家に接している場合は、近隣住民への事前の挨拶など迷惑を及ばさぬよう配慮します。



（4）スカウティング誌に掲載している「野外活動のための安心・安全講座」をとりまとめた冊子や過去の日本連盟コミッショナー通達が日本連盟ホームページに掲載されておりますので、活用してください。

◆ ◆ ◆

また、先日、「ボーイスカウトが、無謀で危険な活動を行っている」と、一般の方より通報がありました。それは、2500m 超級の山を、T シャツ 1 枚で、何も装備を持たず、荒天の中、スカウトを単独で登山させているとのことでした。今回は、一般の登山者の適切な対応で事故にはなりませんでしたが、いつ重大な事故に至ってもおかしくないケースです。

川、海、山など自然の中で行われる活動ですので、活動を意図的、計画的（当然、装備計画や安全対策、安全教育も含まれます）に実施することを肝に銘じて、スカウトに冒険的で魅力溢れる活動を提供してください。

2. キャンプ等の計画について

指導者は、スカウトの興味や冒険心等を追求しつつ、教育効果と安全確保を心がけ、プログラムに対して充分かつ綿密に計画し、現場では、スカウトの体力、技能、体調等を考慮し、安全で楽しい経験ができるよう取り組みます。

また、終了後には、万が一に備えて、協力の要請をお願いした緊急連絡先や関係機関（病院、警察、消防、関係県連盟等）には無事終了の報告とお礼を行うようにしましょう。

3. ヒッチハイクについて

ヒッチハイクは、多くの人との出会いや他人の優しさに触れるなど、旅の可能性を広げるものですが、偶然や運に左右され、前述にある綿密な計画に基づいた活動とはなりません。また、犯罪に巻き込まれる可能性も高くなりますので、ボーイスカウトではヒッチハイクは行いません。

4. アレルギー疾患のあるスカウトへの対応について

アレルギー疾患のあるスカウトが食物や蜂などのアレルギー反応によりアナフィラキシーショックを発症し、非常に短時間のうちに重篤な状態に至ることがありますので、アレルギー疾患のあるスカウトが安心･安全なスカウト活動を行うためには、保護者と指導者の間で日頃から意志疎通を図り、正しい知識に基づいた予防や対処が必要です。

5. 各種書類の提出

活動場所や内容に応じて必要書類を県連盟や行政管轄部署等に提出することが求められています。

（1）登山等の活動を実施する場合は、登山計画書（登山届）を管轄している警察署等に提出します。

（2）活動を県外で行う場合は、隊指導者は団を経由して所属県連盟に県外旅行申請書を提出します。

（3）隊指導者は、全ての活動の実施計画書、安全計画書を必ず事前に作成し、団に提出し承認を得ておきます。



夏季特有の安全対策

1. 熱中症対策の徹底

①気象状況を把握し、活動を見直す

- 天候に加え、気温、湿度の状況も把握してください。
- 状況に応じて、予定の活動を見直す、中止するなどの判断を確実に行ってください。

②安全な場所の確保と十分な休憩

- 活動中には、日陰や風通しのよい場所の確保を行い、休憩を十分にとれるよう努めて



ください。

- 暑さや日差しにさらされる場合は、休憩をこまめにとり、無理をしないようにしましょう。

③持ち物・服装

- 野外での活動では必ず帽子をかぶり、通気性のよい服装で活動しましょう。
- 必ず飲み物を用意し、早めに飲むようにしましょう。
- 折りたたみ傘など日よけとして活用するなど工夫しましょう。

④水分・塩分補給

- のどがかわいていなくても、こまめに水分をとりましょう。
- 大量の汗をかくときは、特に塩分補給をしましょう。
- 活動中は適宜、休憩と水分を取る時間を持ちましょう。

⑤その他の配慮

- 活動の内容によっては、単独で行動することがないようにすることも大切です。
- 活動に参加する前の健康状態、とくに十分な睡眠や食事とるようにしましょう。
- これらのことをスカウトだけでなく指導者にも徹底してください。

⑥熱中症と思われる時

- すぐに医療機関へ相談、または救急車を呼びましょう。
- 涼しい場所へ移動し、衣服を脱がし、体を冷やして体温を下げましょう。
- 塩分や水分を補給しましょう。（おう吐の症状がある場合や意識がない場合は、むりやり水分を飲ませることはやめましょう）

⑦参考（下記の情報を参考に、熱中症の予防、対策に努めましょう。）

- 環境省の熱中症予防情報サイト（http://www.wbgt.env.go.jp/）
- 一般財団法人日本気象協会の推進する「熱中症ゼロへ」（https://www.netsuzero.jp/）

2．水辺活動の安全対策

川や海の水には流れがあり、**離岸流、ダンパー波、一発波、インショアホール**などといった危険な波があるとともに、冷たい水による**低体温症、増水や消波ブロック**に潜む危険もありますので、現地の情報等を事前に調査のうえ、十分な安全対策を講じるようにします。

特に、海での活動については、令和元年度スカウティング誌7月号に「海での活動について自己救命策の3つの基本

①ライフジャケットの常時着用
②連絡通信の確保
③海難の際の緊急通報電話である118番の有効活用

を掲載していますので、ご留意の上、安心・安全な活動を行うようにお願いします。



3．登山・ハイキングでの安全対策

これらの活動には、**道迷い、滑落、落石、落雷、崩落、鉄砲水**などの危険があります。また、夏山登山でも**低体温症**は起こり得ます。これらの危険を認識し、最悪の天候を想定した防寒着、雨具等の装備を持つなど対処できるようにします。また、体力増強や体調管理を図り、コンパスワークや読図等のスキルも事前に修得し安全対策の一助とします。

日本連盟ホームページ（https://www.scout.or.jp/member/info/comi_tozan_20131218/）に、日本連盟コミッショナー通達「登山・ハイキングの実施に関して」を掲載



しておりますので参照してください。

4．危険な動植物への対応

野外活動では、危険な生物に遭遇することがあります。最近は**クマ**の被害も出ています。活動先の環境や動向を調査し、地元の方に情報を聞く等、その対応を必要以上にお願いします。

また、**スズメバチ**被害も毎年20人前後の死亡者（厚生労働省人口動態調査より）が出ており、最も危険な生物といえます。**毒蛇、ムカデ、ヒル**などの危険生物の他、**マダニ**等の媒介による感染症が多く報告されておりますので、マダニの



生息場所に入る場合には、長袖の服、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくし、活動後には、入浴して体をよく洗い、付着したマダニがいないか点検し、衣服は洗濯するなど予防に努めます。また植物では、**ウルシ**や棘のある**ノイバラ**などにも注意が必要です。接触の可能性がある場合は、被害に遭わないよう予防に心がけるとともに被害への対処ができるようにします。

5．食中毒対策

夏季は**O157**など食中毒が発生しやすくなります。食材の保存には十分注意して、予防対策を講じておきます。



6．天候チェック

局地的な**集中豪雨**など異常気象や**落雷**による事故・被害が発生しています。活動前に必ず天候チェックを行い、プログラムの実施、変更、延期または中止など適切に状況を判断して決定します。



◆ 団情報の登録を（日連 HP、県連 HP に）

皆さんは、日連ホームページや県連ホームページの団紹介ページの効果はどれ程あるとお思いでしょうか?

多い月で 10 件程の問い合わせ（団照会）があります。そのほとんどはズバリ団を指名しています。団を指名している理由は、照会ページに詳しく団の様子が書かれているという理由からでした。保護者は、特に団の方針や、活動の様子、指導者の態度（スカウトへの関わり方）に関心をもっており、それが入団のポイントとなっているようです。

ホームページがない団でも、この日連や県連に団紹介ページを活用することでスカウトの獲得につなげることができます。未掲載の団は、是非とも各団の情報を掲載しましょう。



●日連 HP の団紹介

【用意するもの】

○ネットにつながったパソコン

○活動の写真 4 枚（団の活動の方針を表したもの、楽しそうな表情のもの、真剣にとりくんでいるものが良い。集合写真はダメ。掲載前に保護者の承諾を。）

○団の概要紹介 1 つ、活動の紹介　3 つ。

○団データ（隊の数、地域、男女など）

【具体的な手順】

①掲載内容を検討・確認し団委員長の承認を得る。

②パソコンブラウザで下記へアクセスし、掲載情報を入力し、送信する。

https://www.scout.or.jp/danform/

このサイトの説明にしたがって入力ください。また、追加・修正のある場合は、その項目のみ記入して送信ください。送信後 1 週間ほどでネット上の団情報が掲載されます。

【掲載できる情報】

<ページイメージ：情報の配置　右図>

A：体験できる隊や指導者募集の表示

B：団のイメージ画像

C：団の紹介文

D～F：活動紹介を 3 枚の画像と説明文

G：団の住所、主な入団地域（募集対象エリア）、 主な活動場所

HP、Facebook、Twitter、Instagram 等のリンクボタンを掲載

H：（ページ表示はしませんが）

各団詳細ページにキーワードを埋め込み（最大 20 個まで）

お問い合わせメールアドレス

等のデータをお手元に用意いただき、上記 URL から、画面の指示に従って、入力フォームに入力していきます。　操作はとても簡単です。



●茨城県連 HP の団紹介（更新情報もお送りください）

県連ホームページにも、団情報を掲載しています。こちらはエクセルファイルに記入し、写真を 4 枚添付し、県連事務局宛に E メールで送ってください。

→（掲載ページ）http://www.scout-ib.net/03TroopInfo/index.html

→（エクセルファイル）http://www.scout-ib.net/06MUSEUM/06scdb.html

IB-GP レポート（第２地区）

○**実施日：**　平成31 年３月 24 日（日）
○**実施場所：**水戸芸術館
○**実施概要：**

地域の子どもたちも参加できるよう「スカウトフェス」として実施しました。IB グランプリのコースを中心に配置し、みんなで盛り上がりながら、その周囲に「手話体験」「防災プログラム」「芸術館写真キムス」「難民支援ワークショップ（難民支援衣類も 200 着以上回収!）」を展開しました。開会式と閉会式はローバースカウトが進行、ベンチャースカウトたちも奉仕で参加です。

当日は、スカウト以外にも、多くの地域の子どもたちの参加があり、その後、通常活動の体験・入隊が実現しました。

作ってワクワク、走らせてドキドキ。キラキラのデザインの車の走行に、気持ちをひとつにしたグランプリでした。

◆ビーバースカウトより

○デザインがすごく上手なひとがいてビックリしました。ぼくのデザインは、ぼくがきめて、お母さんといっしょにつくりました。ぼくのビーバーカーはうえきばち号にしたので、レースがおわった今も、お花をうえておへやにかざってあります。つぎの大会のときはカブになっているので、自分ひとりでがんばってつくります。

○とちゅうで車がおちたらどうしようと思ったけど、さいごまで走りきれました。ゆうしょうできてうれしかったです。

◆カブスカウトより

○コースから落ちたり外れたりしちゃった人は少しかわいそうでした。でも、色んなデザインの車が見られて楽しかったし、次のデザインの参考になりました。

○デザイン賞をもらえて、とてもうれしかったです。自分でデザインしたものを色づけしたりするのは苦労したけど、やったかいがありました。

◆ベンチャースカウト（奉仕）より

○経験のないイベントだったので不安なこともあったのですが、予想以上の盛り上がりをみせ、参加者が年齢関係なく楽しめたようでした。そんな活動に参加できたことに感謝しています。

◆保護者より

○デザインから自分で考えて楽しみながら作成でき、本番では優勝することができました。とても良い思い出です。当日集合したたくさんのビーバーカー、個性いろいろあり面白かったです。

◆リーダーより

○車体の土台作りから始まり、とまどうこともあったが、少しずつイメージがかたまり、スカウトとともに色々な経験ができました。1からの物作り、仕上げたもので競い合うということで、当日の期待や興奮は皆同じで楽しい時間となりました。





IB-GP レポート（第６地区）





向かって左から、かわいいで賞、おもしろいで賞、かっこいいで賞です

SCOUTING IBARAKI SINCE 1951

SC-IB Newsletter

SC-IB（Scouting Ibaraki）Newsletter　2019 年 7 月 号　通 算 20 号
2019（令和元）年 7 月発行
発行　日本ボーイスカウト茨城県連盟事務局
〒 310-0034　水戸市緑町 1-1-18　茨城県立青少年会館 3F

※ SC-IB Newsletter は、２～３ヶ月ごとに不定期で発行しています。
※ SCOUTING 茨城に掲載されている写真・文章等は著作権法等により保護されています。著作権者に無断の複写・転載は堅くお断りいたします。